

全体総括

○計画期間：平成20年11月～平成26年3月（5年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市では、基本計画の認定以降、かつての「栃木県北の商業地」の再生に向け、合併特例債や社会資本整備総合交付金の利活用による事業の加速化を図り、中心市街地活性化協議会をはじめ市民と連携しながら目標の達成に向け積極的な取り組みを行ってきた。

しかし、「都市計画道路・西那須野線拡幅事業」については工事が未完了であり、「3・3・2大田原野崎線拡幅事業」については工事が始まったばかりである。この道路拡幅に伴い多くの店舗や住宅が郊外に移転したほか、「大田原赤十字病院」の郊外移転や「いわいや（結婚式場）」の廃業なども相次いだ。また、「2核1モール」の基本方針に基づき、その1核として計画された「城山地区屋台会館等整備事業」については事業（用地取得）が難航したことで事業期間内に実施に至らなかったことや、居住人口の目標に影響を及ぼす「市営住宅等整備事業」、「医療ビレッジ整備事業」については、東日本大震災による市役所庁舎をはじめ多くの公共施設の被害により見直しを余儀なくされた。

このような状況から中心市街地における居住人口や商業振興については厳しい状況に直面し、いずれの目標値も基準値に及ばない結果となった。

しかしながら、図書館、子育て支援施設、会議室などの公共公益施設や、商業施設、医療施設など複数の都市機能を集約化し、平成25年12月にフルオープンした「再開発ビル（以下：トコトコ大田原）」では、若い子育て世代から学生、お年寄りに至るまで幅広い世代に利用されている。この拠点形成に伴い、周辺部では歩行者・自転車の通行量が大幅に増加するなど、賑わいが見られるようになった。また、市街地の変化として、トコトコ大田原の会議室を利用した様々な講座の開催など市民活動が活発化しており、今後の活性化に向けて、大きな期待が持てる状況にある。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

基本計画に記載された40事業中30事業が完了し、継続中7事業、未着手は3事業であることから、概ね順調に進捗・完了した。

なお、トコトコ大田原を中心に歩行者・自転車の通行量が増加したことから街なかの賑わいが向上したほか、市民への意識調査からも活性化が図られたと見て取れる。

一方で、中心市街地内の居住人口については、市営住宅等整備事業の中止や、街路事業による道路拡幅によって地権者が郊外に移転したことにより、目標値には及ばない結果となっている。同様に商業振興についても、居住人口の減少に伴う店舗利用客の減少や、道路拡幅に伴い

建替え中である店舗以外は郊外に移転するなど厳しい状況に置かれている。

しかし、継続中である7事業の完了に伴い、まちなかの「住みやすさ」が回復すれば、徐々にではあるが目標値に近づくものと思われる。また、上記「1.」のとおり、トコトコ大田原を中心に活気が戻り、市民活動が活発化しつつあることは、基本計画に基づき、5年間、官民が連携して中心市街地の活性化に取り組んだ一定の成果であるといえる。

### 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(大田原市としての見解)

「訪れる人を増やす戦略」として、「多様な市民活動のさらなる集積と発信による賑わいの創出」を達成するための「歩行者・自転車数」については、トコトコ大田原周辺部では歩行者数が増加し活性化が図られたが、それ以外では減少しており、総じて目標値には達しなかったものの基準値を上回ったことから、若干の活性化が図られたと判断する。この要因としては、計画期間内に事業着手困難となった「城山地区屋台会館等整備事業」の代替策として、トコトコ大田原内への「図書館」の移転や、乳幼児を抱え社会活動が制限される子育て世代の文化活動や購買活動を促進させる仕掛けとして、屋内遊具施設、親子レクリエーション施設、一時保育センター等を備えた「まちなか子育て世代活動支援施設」を新たに追加するなど、複数の都市機能を集約化し、様々な世代が利用できる、都市拠点が形成されたことによるものが大きい。

一方で、街なかの回遊性を高める「軸」となる「都市計画道路・西那須野線拡幅事業」や「3・3・2大田原野崎線拡幅事業」では、歩行者・自転車の通行環境(歩道)の整備が完了せず、連続性が確保されていないため、トコトコ大田原から離れた地点での自転車通行量の減少要因となっている。また、大田原赤十字病院の郊外移転に伴う減少によることも大きいと考えられる。

「住む人を増やす戦略」として、「ひとにやさしいまちなか居住の推進」を達成するための「定住人口の増加」については基準値よりも悪化しており、活性化が図られたとは判断できない。その大きな要因として、見込んでいた定住人口増加分のうち約6割を占める市営住宅等整備事業、ケア付き住宅、分譲マンション等の各事業について、東日本大震災による影響から計画変更を余儀なくされ、入居者が25人のみと大きく減少したことが挙げられる。また、街路の拡幅に伴い郊外に居住した世帯が現時点では中心市街地に戻っておらず、人口減少に歯止めがかかっていない状況である。

また、「商業活性化のための戦略」として、「地域特性を踏まえた商業の振興」を達成するための「小売販売額の増加」についても基準値より悪化しており、活性化したとは判断できない。その大きな要因として、定住人口の増加分を小売販売額の増加分として見込んでいたが、定住人口が減少してしまったことや、2核1モールのもうひとつの核である「城山地区屋台会館等整備事業」が事業期間内に事業実施に至らなかったことが挙げられる。また、外部要因として、中間時点からさらに商業施設の郊外立地が進んだことも挙げられる。

以上、全体を俯瞰すると活性化の状況は個別指標によって一長一短であるが、市民のまちづくり活動への参加人数や、ソフト事業などへの積極的な取組など、目標指標として掲げていない部分で活性化が図られたことなどから、全体的には若干の活性化が図られたと評価する。

### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

#### 【詳細を記載】

平成20年11月に「金燈籠が照らすまち」をコンセプトとした基本計画が内閣府の認定を受け、「訪れる人を増やす戦略」、「住む人を増やす戦略」、「商業活性化のための戦略」を基にして、40の事業が計画されました。協議会といたしましても、一つひとつの事業がより市

民権を得たものとするために、事業実施にあたっての内容を協議し、意見を提出してまいりました。

事業の核である「中央通り地区第1種市街地再開発事業」は、中心市街地への居住を進め、自転車や徒歩で買い物にいける暮らしやすい都市づくりを目的に、生活に必要な機能をひとつに集積した拠点施設になりました。その結果、中心市街地の歩行者・自転車の通行量は基準値や中間調査よりも増加しており、ある一定の効果があつたものと評価しております。今後、街路整備事業が完成することで歩きやすい歩行空間と統一された街並み景観形成により、ここを起点とした街なかへの回遊と商店街への波及効果も期待ができます。

一方で、東日本大震災による被害を受け、予定していた一部のハード事業が見直されたことよって、すべての事業実施までには至ってはいないのが現状であり、中心市街地の活性化は1期計画が終了したとはいえ、まだスタートしたばかりであります。1期計画に掲げながら実現できなかった積み残しの事業や、これまでの事業推進の過程で新たに浮かび上がってきた課題もあります。

したがって、これまでの投資を有効活用し、定住人口の増加や民間投資の喚起を軸とした施策を継続していく必要があります。今後も行政と連携を図りながら中心市街地活性化のための事業を企画調整してまいります。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

#### <調査概要>

(1)調査対象者：

トコトコ大田原より2km圏内に含まれる大田原地区(全地区)、金田地区(中中原、町島)の住民から無作為抽出した約1,300名(必要サンプル数390枚、回答率30%を想定)。

(2)調査方法：郵送配布、郵送回収方式

(3)調査時期：平成26年3月

(4)回収状況：389枚(回収率29.9%)

#### <①アンケート回答者属性>

##### 【年代別回答者割合】

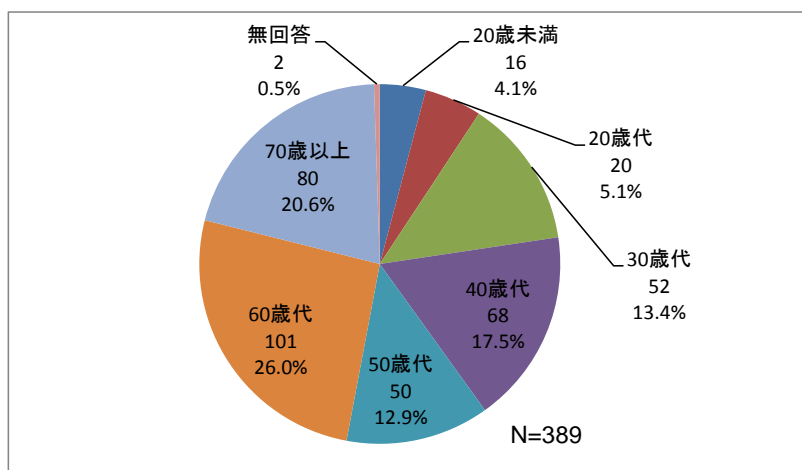


図 年代別回答者割合

60歳代が最も多く26.0%、次いで70歳以上の20.6%、40歳代、30歳代、50歳代と続いている。

【性別回答者割合】

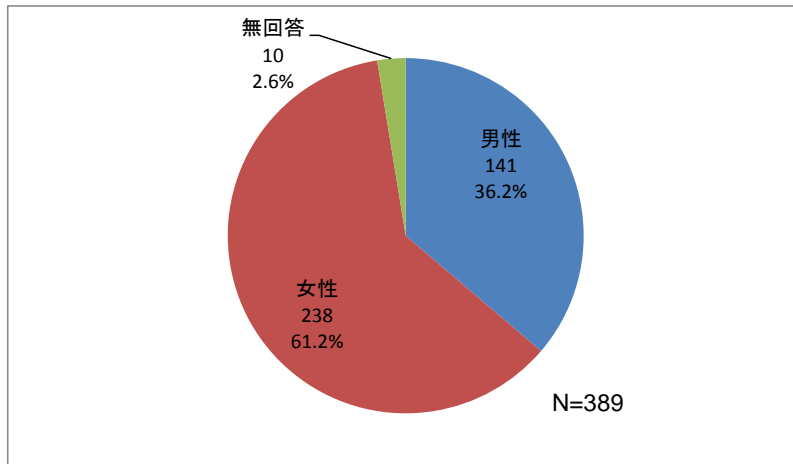


図 性別回答割合

アンケート回答者の61.2%が女性、36.2%が男性となっている。

【地区別回答者割合】

表 地区別回答者割合

地区名	郵便番号	回収	配布	回収率
若草	0021	19	68	27.9%
富士見	0028	23	74	31.1%
本町	0041	21	72	29.2%
末広	0042	31	87	35.6%
浅香	0043	51	186	27.4%
加治屋	0046	30	106	28.3%
美原	0047	58	187	31.0%
山の手	0051	16	42	38.1%
城山	0052	13	52	25.0%
元町	0053	12	40	30.0%
若松町	0054	9	30	30.0%
新富町	0055	17	62	27.4%
中央	0056	10	36	27.8%
住吉町	0057	10	39	25.6%
紫塚	0058	25	84	29.8%
中田原	0062	37	126	29.4%
町島	0063	1	9	11.1%
地区不明		6	—	—
合計		389	1,300	29.9%

回収率は全体で29.9%と約3割。地区別では山の手地区が最も高く(38.1%)、町島地区が最も低い(11.1%)。

<②中心市街地のにぎわいについて>

(1) 中心市街地の様子について

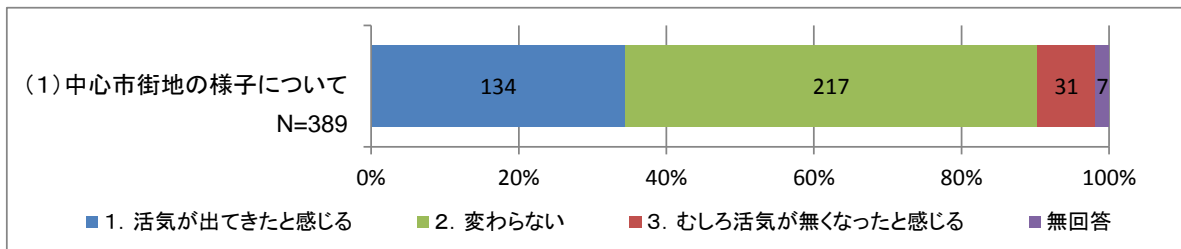


図 中心市街地のにぎわいについて (中心市街地の様子)

「変わらない」との回答が最も多い(55.8%)ものの、「活気が出てきたと感じる」(34.4%)とする回答が、「むしろ活気が無くなったと感じる」(8.0%)とする回答を上回っていることから、中心市街地全体としては、以前よりも活気が出てきたと感じているようである。

(2)あなたにとって

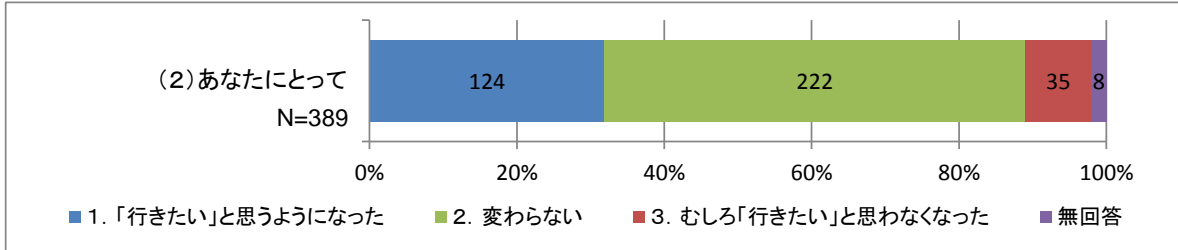


図 中心市街地のにぎわいについて（あなたにとって）

「変わらない」との回答が最も多い(57.1%)ものの、「行きたい」と思うようになった(31.2%)とする回答が、「むしろ「行きたい」と思わなくなった」(9.0%)とする回答を上回っており、中心市街地周辺の市民全体としては、以前よりも中心市街地に魅力を感じているようである。

<③中心市街地の暮らしやすさについて>

(1) 中心市街地全体の暮らしやすさについて

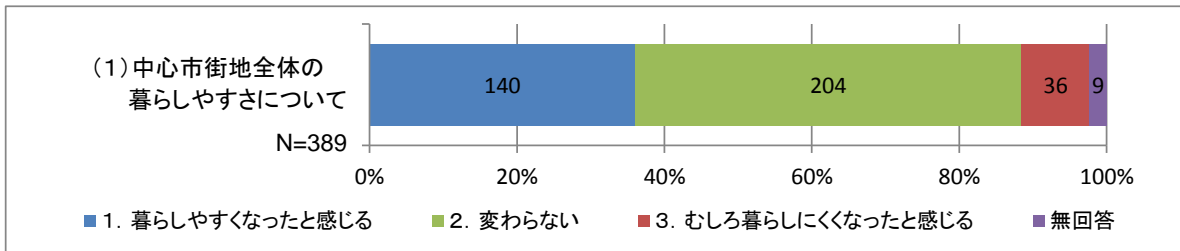


図 中心市街地の暮らしやすさについて（中心市街地全体）

「変わらない」との回答が最も多い(52.4%)ものの、「暮らしやすくなったと感じる」(36.0%)回答が、「むしろ暮らしにくく無くなったと感じる」(9.3%)回答を上回っていることから、中心市街地全体が以前より暮らしやすくなったと感じているようである。

(2)あなたにとって

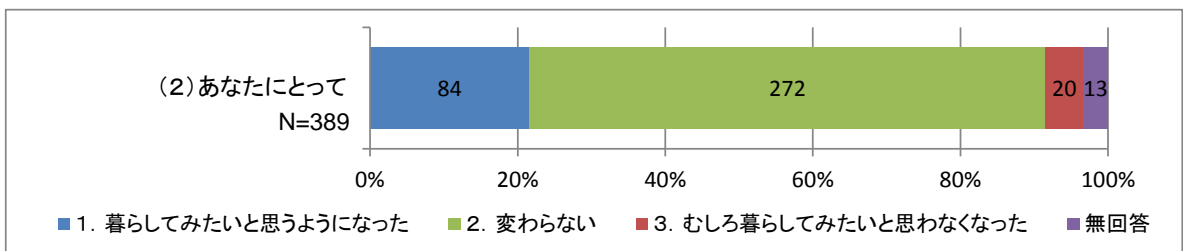


図 中心市街地の暮らしやすさについて（あなたにとって）

「変わらない」との回答が最も多い(69.9%)ものの、「暮らししてみたいと思うようになった」(21.6%)とする回答が、「むしろ暮らししてみたいと思わなくなった」(5.1%)とする回答を上回っていることから、中心市街地周辺の市民全体としては、以前より暮らししてみたいと感じているようである。

#### <④中心市街地の商業活性化について>

(1) 中心市街地全体の商店の様子について

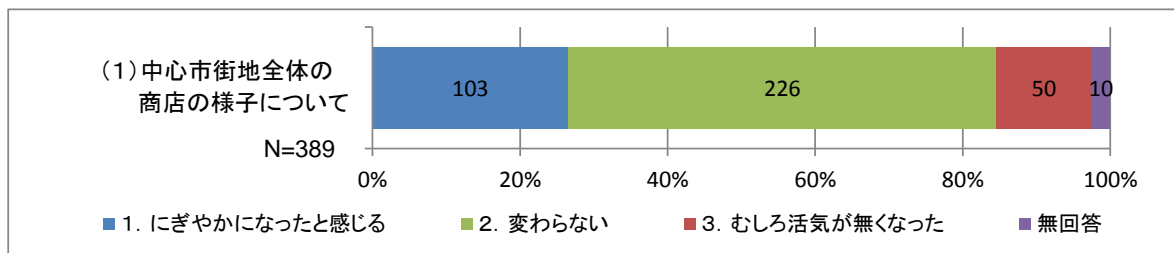


図 中心市街地の商業活性化について（中心市街地全体）

「変わらない」との回答が最も多い(58.1%)ものの、「にぎやかになったと感じる」(26.5%)回答が、「むしろ活気が無くなったと感じる」(12.9%)回答を上回っていることから、中心市街地全体として以前よりにぎやかになったと感じているようである。

(2) あなたの中心市街地での買い物意識

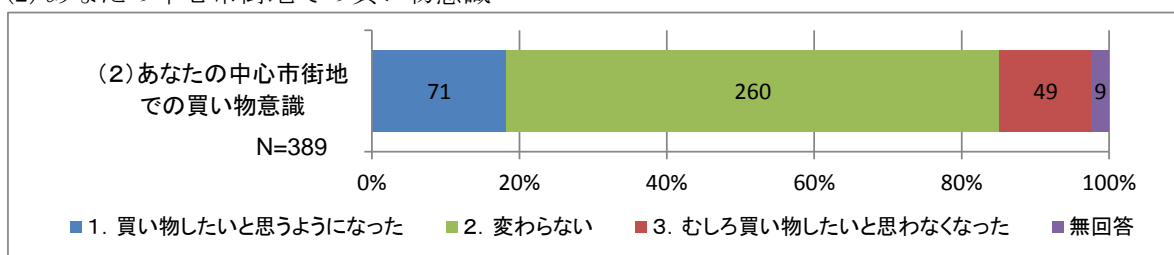


図 中心市街地の商業活性化について（あなたにとっての中心市街地での買い物意識）

「変わらない」との回答が最も多い(66.8%)ものの、「買い物したいと思うようになった」(18.3%)とする回答が、「むしろ買い物したいと思わなくなった」(12.6%)とする回答を上回っており、中心市街地周辺の市民全体としては、以前より中心市街地での購物意欲が高まっているようである。

#### <⑤自由意見回答状況>

表 自由意見回答状況

アンケート回答者数	自由意見	
	回答あり	回答なし
389	242	147

アンケート回答者の62.2%から自由意見の回答があり、中心市街地への高い関心が伺える。

### 6. 今後の取組

徐々にではあるが街なかの賑わい回復が図られてきており、目標数値には届かなかったものの、実施した事業の成果が着実に現れてきているものと考えられる。今後は、街なかの賑わい回復が中心市街地全体に波及するよう、道路拡幅事業をはじめとする継続中の事業を早期に完了させるほか、トコトコ大田原を中心としてイベント等の各種事業を継続的に開催し、賑わいの創出を図る。また、空き家等を有効活用するための新たな制度を創設し定住人口の増加を図る方策や、商店街を受け継ぐ次世代を育成する商業振興策等、実効性の高い事業を検討する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
多様な市民活動のさらなる集積と発信による賑わい創出	中心市街地における歩行者・自転車数	2,301人 (H20)	3,000人 (H25)	2,812人	H26.3.16	<b>B</b>
人にやさしいまちなか居住の推進	中心市街地における定住人口	3,104人 (H19)	3,150人 (H25)	2,691人	H26.4.1	<b><u>c</u></b>
地域特性を踏まえた商業の振興	小売業年間商品販売額	11,017 百万円 (H19)	12,000 百万円 (H25)	9,963 百万円	H26.3	<b><u>c</u></b>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

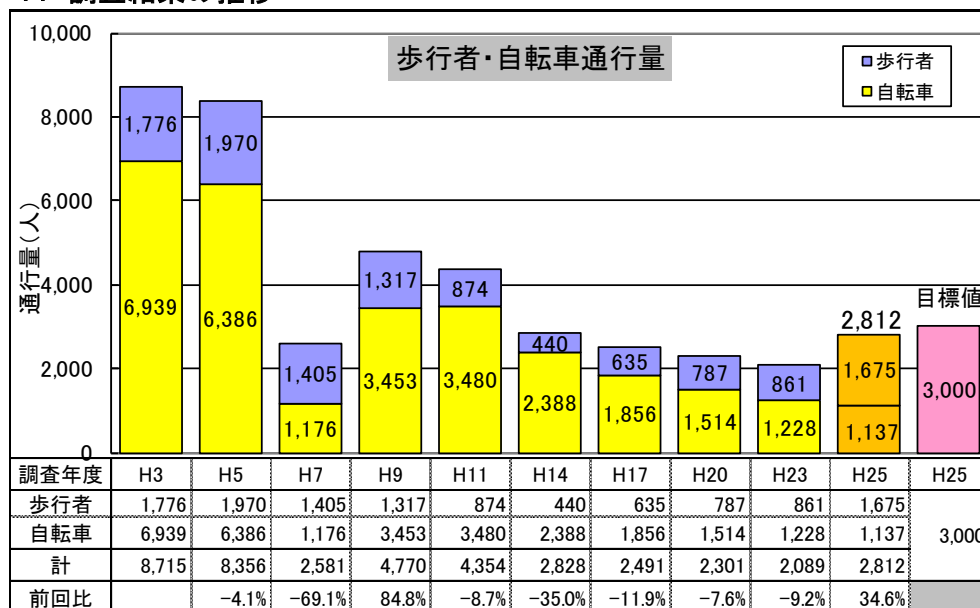
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「多様な市民活動のさらなる集積と発信による賑わいの創出」

「中心市街地における歩行者・自転車数」※目標設定の考え方基本計画 P.60 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H20	2,301 (基準年値)
H23	2,089
H25	2,812
H25	3,000 (目標値)

※調査方法；～平成23年度→3年に1度、9月第1日曜日に実施。8地点において9～19時の10時間計測  
～平成25年度→平成23年度以前と同じ8地点において9～19時の10時間計測

※調査月；平成26年3月16日（日）

※調査主体；大田原市

※調査対象；中心市街地8地点における歩行者及び自転車の通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中央通り市街地再開発事業（市街地再開発組合・大田原市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） H18年度～H24年度	
事業開始・完了時期	平成18年度～平成25年度【済】	
事業概要	中央通り地区において土地の高度化利用を図り、商業施設・医療ビレッジ・公共施設等を含めた複合用途の再開発ビルを整備する事業。	
目標値・最新値	目標値	最新値
歩行者・自転車通行量 (トコトコ大田原分)	3,000人/日 (882人/日)	2,812人/日 (1,100人/日)
定住人口の増加 (トコトコ大田原分)	3,150人 (203人)	2,691人 (25人)
小売販売額 (トコトコ大田原分)	12,000百万円/年 (1,070百万円/年)	9,963百万円/年 (75百万円/半年)
達成状況	目標は達成できなかった。（トコトコ大田原分の歩行者・自転車通行量は目標達成。）	
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>（歩行者・自転車通行量）道路拡幅事業が完了せず、歩行者・自転車の通行環境（歩道）の連続性が確保されていないため。</li> <li>（定住人口）トコトコ大田原内に予定していた市営住宅やケア付き住宅の整備が中止されたため。</li> <li>（小売販売額）トコトコ大田原がオープン後半年のため、各個人店舗の正確な売上げが把握できないため。</li> </ul>	



計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館や子育て支援施設などの公共施設や医療施設は、市内外の幅広い世代に利用され、街なかの賑わい創出及び商業振興に大きく貢献している。</li> </ul>
中央通り市街地再開発事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を有効活用したソフト事業を継続し、地域交流・市民活動を活発化させることで、中心市街地の賑わい創出を図るほか、この場所を起点として街なかの集客が増えるよう、イベントの開催や広報活動に努める。</li> </ul>

②. 城山地区屋台会館等整備事業（大田原市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし									
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 28 年度【未】									
事業概要	<p>金燈籠交差点改良工事に伴う城山地区の残地と空地の有効利用を図るため屋台会館等を整備する事業。</p> <p>屋台会館を地域交流センターとして位置づけ、屋台の展示場や多目的ホールを設置するもの。</p>									
目標値・最新値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者・自転車通行量 (うち屋台会館増加分)</td> <td>3,000 人/日 (336 人/日増)</td> <td>2,812 人/日 (0 人/日)</td> </tr> <tr> <td>小売販売額 (うち屋台会館増加分)</td> <td>12,000 百万円/年 (250 百万円増)</td> <td>9,963 百万円/年 (0 円)</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量 (うち屋台会館増加分)	3,000 人/日 (336 人/日増)	2,812 人/日 (0 人/日)	小売販売額 (うち屋台会館増加分)	12,000 百万円/年 (250 百万円増)	9,963 百万円/年 (0 円)
	目標値	最新値								
歩行者・自転車通行量 (うち屋台会館増加分)	3,000 人/日 (336 人/日増)	2,812 人/日 (0 人/日)								
小売販売額 (うち屋台会館増加分)	12,000 百万円/年 (250 百万円増)	9,963 百万円/年 (0 円)								
達成状況	目標は達成できなかった。									
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災等の影響により財政状況が逼迫したことや、用地取得の難航により、計画期間内での事業着手に至らなかったため。</li> </ul>									
計画終了後の状況（事業効果）	—									
城山地区屋台会館等整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期に事業実施できるよう、引き続き最大限努力する。</li> </ul>									

③. 多目的公園整備事業（大田原市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（中央通り金燈籠地区）） H21 年度～H25 年度						
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 25 年度【済】						
事業概要	<p>中心市街地内で遊休地化した J T 跡地を活用し、市民の憩いのスペースの確保や都市防災機能を持たせた多目的公園を整備する事業。</p>						
目標値・最新値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者・自転車通行量 (うち公園による増加分)</td> <td>3,000 人/日 95 人増/日</td> <td>2,812 人/日 120 人増/日</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量 (うち公園による増加分)	3,000 人/日 95 人増/日	2,812 人/日 120 人増/日
	目標値	最新値					
歩行者・自転車通行量 (うち公園による増加分)	3,000 人/日 95 人増/日	2,812 人/日 120 人増/日					
達成状況	目標達成。						
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>憩いの広場やジョギング・散歩等の施設として、休日の平均利用者が約 300 人であり、4 割が徒歩・自転車を移動手段としている。</li> <li>事業期間中に発生した東日本大震災を契機に都市防災機能の向上がより認識された。</li> </ul>						
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊歩道や芝生広場等が整備され、幅広い世代の周辺住民が訪れているなど、街なかの賑わい創出に貢献している。</li> </ul>						

多目的公園整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施済み</li> <li>・ 避難訓練実施や避難場所の周知等、市民の防災意識向上に努める。</li> <li>・ イベント会場として利用し、中心市街地への集客を図る。</li> </ul>
------------------	--

④. まちなか子育て世代活動支援施設整備事業（大田原市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（中央通り金燈籠地区）） H23年度～H25年度										
事業開始・完了時期	平成23年度～平成25年度【済】										
事業概要	行動が制約される子育て世代の文化活動や購買活動を促進するため、トコトコ大田原内に子育て相談室、親子調理室、プレイルーム等を整備する事業。										
目標値・最新値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者・自転車通行量</td> <td>3,000人/日</td> <td>2,812人/日</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>—</td> <td>89,000人(3ヶ月半)</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量	3,000人/日	2,812人/日	利用者数	—	89,000人(3ヶ月半)	
	目標値	最新値									
歩行者・自転車通行量	3,000人/日	2,812人/日									
利用者数	—	89,000人(3ヶ月半)									
達成状況	目標達成。										
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが安心して遊べる施設として人気が高く、子育て世代の利用者が多く訪れているため。</li> </ul>										
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設利用者が周辺飲食店等に立ち寄るなど、街なかの賑わいに大きく貢献している。</li> </ul>										
まちなか子育て世代活動支援施設整備事業の今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施済み</li> <li>・ 利用促進につながるよう、PR活動を推進する。</li> </ul>										

⑤. 荒町パティオ事業（(株)大田原まちづくりカンパニー）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし													
事業開始・完了時期	平成23年度～平成24年度【済】													
事業概要	<p>既存店舗の他に新たな業種を誘導し、パティオ型商業施設を整備することにより、トコトコ大田原との相乗効果による商業の活性化、賑わいの創出を図る事業。なお、Dブロック土地区画整理事業内では用地取得の目処が立たず、あらまち蔵屋敷内に計画を移し、集約。新たに2店舗オープン。</p> <p>その後、東日本大震災により全店舗半壊したが、平成23年5月に再オープンした。</p>													
目標値・最新値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>最新値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行者・自転車通行量</td> <td>3,000人/日</td> <td>2,812人/日</td> </tr> <tr> <td>小売販売額</td> <td>12,000百万円/年</td> <td>9,963百万円/年</td> </tr> <tr> <td>(うち荒町パティオ増加分)</td> <td>(350百万円増)</td> <td>(24百万円増)</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量	3,000人/日	2,812人/日	小売販売額	12,000百万円/年	9,963百万円/年	(うち荒町パティオ増加分)	(350百万円増)	(24百万円増)	
	目標値	最新値												
歩行者・自転車通行量	3,000人/日	2,812人/日												
小売販売額	12,000百万円/年	9,963百万円/年												
(うち荒町パティオ増加分)	(350百万円増)	(24百万円増)												
達成状況	目標は達成できなかった。													
達成した（出来なかった）理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初はトコトコ大田原に対し中央通りを挟んだDブロックに整備する予定だったが、地権者交渉に目処が立たず、あらまち蔵屋敷周辺に店舗を集約したことで、4店舗まで減少したため。</li> </ul>													
計画終了後の状況（事業効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地内はイベント等で活用されており、街なかの賑わい拠点の一つとなっている。</li> </ul>													

荒町パティオ事業の今後について	・ 実施済み
-----------------	--------

⑥. 空き店舗流動化対策事業（中心市街地活性化協議会）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし										
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 25 年度【済】										
事業概要	中心市街地内の空き店舗の流動化を図るため、貸し手、借り手の出会いの場づくりや、家賃、業種等の設定、調整に信頼される機関を介在させる等の空き店舗対策事業。										
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者・自転車通行量</td> <td>3,000 人/日</td> <td>2,812 人/日</td> </tr> <tr> <td>開店目標</td> <td>10 店舗</td> <td>12 店舗</td> </tr> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量	3,000 人/日	2,812 人/日	開店目標	10 店舗	12 店舗	
	目標値	最新値									
歩行者・自転車通行量	3,000 人/日	2,812 人/日									
開店目標	10 店舗	12 店舗									
達成状況	目標達成。										
達成した（出来なかった）理由	・ 起業再出発支援事業（市単独補助）を活用し、空き店舗改修費を補助したことで、飲食店や雑貨店がオープンしやすい環境となったため。										
計画終了後の状況（事業効果）	・ 新規店舗のオープンにより街なかに人の流れが増え、集客に寄与している。										
空き店舗流動化対策事業の今後について	・ 今後も補助金を活用して、空き店舗が解消できるよう促進を図っていく。										

⑦. 学生サロン整備事業（大田原市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし										
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 25 年度【済】										
事業概要	国際医療福祉大生が運営する中心市街地内の B S P カフェを学生が集う拠点施設として発展・充実させる事業。 B S P カフェの営業空き時間を利用した世代間交流喫茶「いってみっけ」が平成 22 年 11 月 13 日にオープン。										
目標値・最新値	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>最新値</td> </tr> <tr> <td>歩行者・自転車通行量</td> <td>3,000 人/日</td> <td>2,812 人/日</td> </tr> <tr> <td>(うち、本事業分) 来場者</td> <td>1,000 人増/年</td> <td>480 人増/年(H23)</td> </tr> </table>		目標値	最新値	歩行者・自転車通行量	3,000 人/日	2,812 人/日	(うち、本事業分) 来場者	1,000 人増/年	480 人増/年(H23)	
	目標値	最新値									
歩行者・自転車通行量	3,000 人/日	2,812 人/日									
(うち、本事業分) 来場者	1,000 人増/年	480 人増/年(H23)									
達成状況	目標は達成できなかった。										
達成した（出来なかった）理由	・ 平成 19 年度は 250 日開店し約 1,500 人の利用者であったが、平成 23 年度は開店日数が H19 の 2/3 程度となってしまう、「B S P カフェ」と「いってみっけ」を合わせた年間利用者も約 2,000 人とどまってしまったため。										
計画終了後の状況（事業効果）	・ 学生と地域の交流の場所となっていたが、学生の学業とアルバイトとの両立の難しさや志向の変化に伴い、平成 25 年 5 月に閉店となった。										
学生サロン整備事業の今後について	・ 空き店舗を利用した、学生の志向に沿った新たなサロン形態を検討する。										

### 3. 今後について

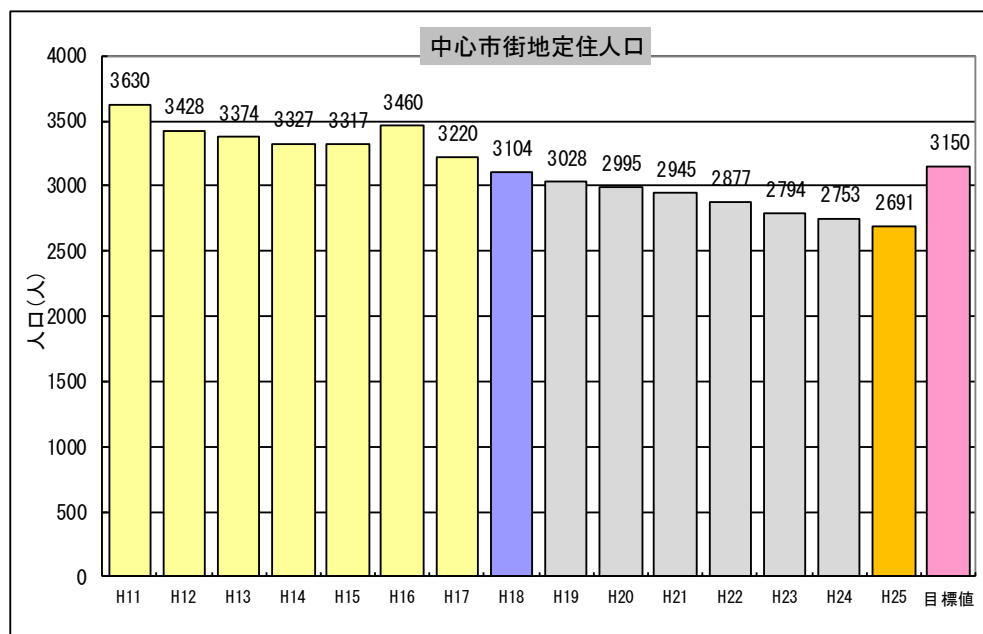
- ・ 中心市街地全体に賑わいを波及させるためには、事業中の「都市計画道路・西那須野線拡幅事業」や「3・3・2大田原野崎線拡幅事業」をはじめとする市街地回遊環境の整備のほか、城下町・宿場町として個性的で魅力的な街並みの形成を一層推進することが必要である。
- ・ トコトコ大田原を中心として地域交流・市民活動を活性化させるためのイベントを実施することで、中心市街地への集客と賑わいの創出を図る。

個別目標

目標「人にやさしいまちなか居住の促進」

「中心市街地における定住人口」※目標設定の考え方基本計画 P.77～P.79 参照

1. 調査結果の推移



H18	3,104 (基準年値)
H19	3,028
H20	2,995
H21	2,945
H22	2,877
H23	2,794
H24	2,753
H25	2,691
H25	3,150 (目標値)

※調査月：平成26年3月

※調査主体：大田原市

※調査対象：中心市街地活性化エリア内対象6町の住民基本台帳登録人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中央通り市街地再開発事業（市街地再開発組合・大田原市）

【再掲】 P.8～P.9 参照

②. 市営住宅等整備事業（市街地再開発組合・大田原市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし	
事業開始・完了時期	平成18年度～平成24年度【未】	
事業概要	トコトコ大田原内に市営住宅や高齢者ケア付き住宅、分譲マンション等を整備し、まちなか居住の推進を図る事業。	
目標値・最新値	目標値	最新値
	定住人口 (うち本事業分)	2,691人 (25人)
	3,150人 (203人増)	
達成状況	目標は達成できなかった。	
達成した（出来なかった）理由	・ 市営住宅等整備事業が中止となり、分譲マンション等10世帯が入居したのみであるため。	
計画終了後の状況（事業効果）	・ 中心市街地活性化エリア外からの入居があったのを契機に、中心市街地に住むことの利便性が認識され、PR効果が出てきている。	
市営住宅等整備事業の今後について	・ 社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）を活用した新たな事業方法について検討する予定である。	

### 3. 今後について

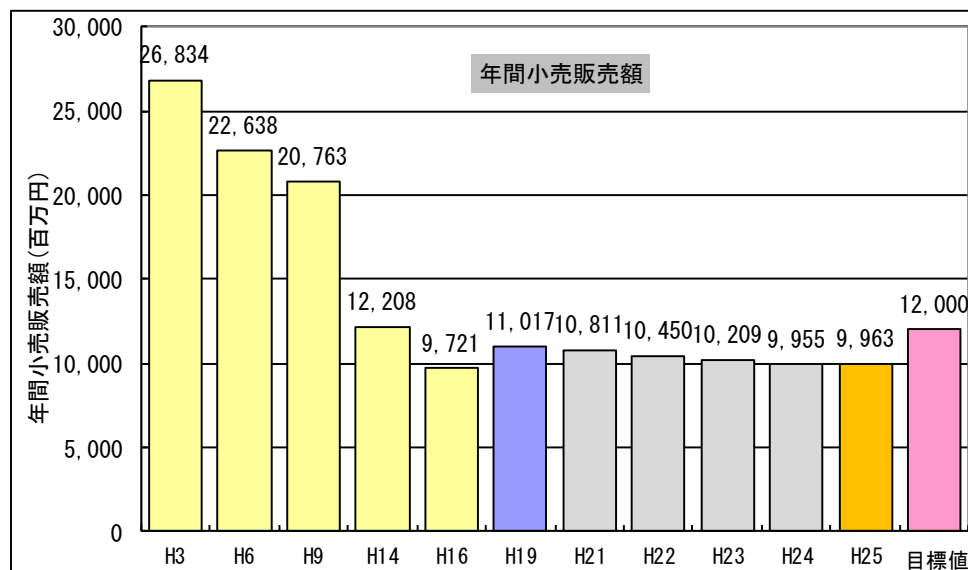
- ・ 少子高齢化の進展に拍車がかかる中、中心市街地に住宅を集約する取組は今後重要性がさらに増すと考えられる。そのため、行政主導の住宅等整備事業のみならず、民間活力を導入し街なか居住を誘導するなど、実効性の高い方策を検討する。
- ・ 中心市街地に点在する空き家等を有効活用するため、新たに空き家等情報バンク制度を創設し、改修費や子育て世帯に対する家賃への補助金活用により、定住促進を図る。
- ・ (株)まちづくりカンパニーや商工会議所と連携し、新設された起業再出発支援事業(市単独補助)の斡旋により、区域内に多数存在する店舗兼住宅の物件化を促進する。

## 個別目標

### 目標「地域特性を踏まえた商業の振興」

「中心市街地における小売販売額」※目標設定の考え方基本計画 P. 80～P. 84 参照

#### 1. 調査結果の推移



H19	11,017 (基準年値)
H21	10,811
H22	10,450
H23	10,209
H24	9,955
H25	9,963
H25	12,000 (目標値)

※調査月：平成26年3月

※調査主体：H3～H19 栃木県（商業統計調査）

H21～H23、H25 大田原市

※調査対象：中心市街地活性化エリア内小売商店の年間小売販売額

(H21～H23 及び H25 は、エリア内の大規模小売店舗2店舗への聞き取りと、H19 商店街別小売販売額（実績値）に各商店街顧客住居地人口の増減率を乗じて推定

さらに、H25 については、新規オープンしたトコトコ大田原内の「トコトコマルシェ」売上分を追加）

#### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中央通り市街地再開発事業（市街地再開発組合・大田原市）

【再掲】 P. 8～P. 9 参照

②. 城山地区屋台会館等整備事業（大田原市）

【再掲】 P. 9 参照

③. 荒町パティオ事業（(株)大田原まちづくりカンパニー）

【再掲】 P. 10～11 参照

④. 空き店舗流動化対策事業（中心市街地活性化協議会）

【再掲】 P. 11 参照

#### 3. 今後について

- ・ 定住人口増加に向けた取組を推進するとともに、商店街で活躍する次世代を育成するため、トコトコ大田原の商業床の一部と空き店舗をインキュベーション施設として活用していく。